

平成28年度 福井県立福井東特別支援学校月見分校 学校関係者評価書

- (問) ・学校評価書の成果と課題が適切かどうか。
・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策が適切か。
・その他

(意見を聞いた方)

福井大学 大学院教育学科 研究科 准教授 廣澤 愛子 様
月見分校 PTA会長 小西 知美 様

○教育課程・学習指導

・「学校評価書の成果と課題」は、適切と思われる。また、それを踏まえた「今後の改善策・向上策」についても、他機関や前籍校との連携や家庭での活動が充実したものとなるよう工夫するなど、学校の外側も視野に入れた支援が検討されており、高く評価できる。
・少人数ということもありきめ細やかな教育指導計画を検討している。入院生に対してもICT機器を使って家庭での勉強等に活かして通学できない部分を補っている。

○生徒指導

・本校の生徒との交流により少しずつ他者に関わることが増え変化が見られる。
・「学校評価書の成果と課題」は、適切と思われる。教師との関係や、部活や委員会などの諸活動を通し、児童生徒が責任をもって意欲的に取り組めるような工夫が随所でなされている。さらに、「今後の改善策・向上策」についても、月見分校に合った(月見分校の特性を生かした)改善案が提案されており、大変よいと思われる。

○進路指導

・生徒の可能性を考えつつ個々の特性を活かした進路指導をしている。そのことによって進路選択がしやすくなっている。
・「学校評価書の成果と課題」は、適切と思われる。本人や保護者が真に納得できるような進路選択ができるように、情報収集や職場見学、進路相談など、きめ細やかな指導がなされており、高く評価できる。また、「今後の改善策・向上策」についても、月見分校に在籍している児童生徒の特性を踏まえた案となっており、適切であると思われる。

○保健指導

・定期的に情報提供があり見逃しがちな小さなことにも気を配っているので安心できる。
・「学校評価書の成果と課題」は、適切と思われる。児童生徒の些細な変化にも目を配っており、心身の健康状態へのケアが行き届いていることがうかがわれる。また、「今後の改善策・向上策」については、本校との連携を視野に入れるなど、より広い視点に立つことの重要性が認識されており、評価できるとと思われる。

○全体(総括)

・少人数で個別の対応があり大変良い。問題があるとすれば、あまり先に立ちすぎて生徒の特性をつぶしてしまっていないか振り返る時も必要であると思う。
・教育課程・学習指導、生徒指導、進路指導、保健指導のすべてにおいて、「成果と課題」は適切であると思われる。児童生徒ひとりひとりを丁寧に見て、教師と児童生徒との信頼関係をベースに、濃やかな指導や支援が行われていることが確認できる。また、「改善策・向上策」についても、より広い視点に立つことや他機関との連携などが明確に意識されており、地域や周囲の学校、他の専門機関などと開かれた関係でいようとする姿勢が高く評価できる。今後も、一人一人の児童生徒への濃やかな支援が継続され、地域に根ざした特別支援学校であり続けることが期待される。

(学校関係者評価を踏まえた今後について)

・保護者や大学教員の高い評価や期待に応えられるように今後もさらに自己研鑽に励む。来年度より分教室とはなるが規模が縮小されても目の前にいる児童生徒に対して十分な指導、支援をしていく。また、医療と教育の面での連携を図り、入院生のための受け入れを意義あるものとしていく。